

特集 No.2

# 「中津川を歩く」 まちの変わり目を 感じたまち歩き

櫻井 高志



当時のまち並みが残る榊形の中

昨年度、中心市街地活性化基本計画づくりのお手伝いをさせていただいた中津川のまちを半年振りに歩いてみた。中津川は中山道四十五番目の宿場町、栗きんとんに代表される和菓子のまち、毎年フェスで盛り上がる音楽のまちでもある。さらに近い将来、リニア駅のあるまちともなる。多様な顔があるまちだが、現状のにぎわいは今一つ。隣の妻籠・馬籠宿はインバウンドでにぎわうが、中津川はそこへの乗換駅としてもつばら通過が目立ち、中心市街地への集客が課題のひとつである。

## 半年ぶりに歩いたまち

中津川の中、心市街地は飲食店などが集積する駅前エリア、中山道沿いだが現代的な商店街となった新町エリア、今も古い町並み残る本町エリアと大きく三つのエリアから成る。

鉄道を降りて最初に目に入るのは、百名山である恵那山。その堂々たる山容が来訪者を歓迎してくれる。山好きにはたまらない景色だ。

恵那山を正面に眺めながら、駅前エリアをしぼらく南に歩くと中山道に交わる。ここで西に折れると新町エリアだ。現代的な商店がコミュニティ道路沿いに立ち並び、和菓子、生鮮食品、居酒屋と豊富な業種で近隣住民の生活を支えている。少し行くと左手に大きな空き地があるのだから、ここには数年後、市の複合施設が建ち、市民や

観光客が集う賑わい拠点となる予定だ。完成するとまちは一変するだろう。またしぼらく進むと、「桂小五郎隠れ家跡」なる看板が現れる。中津川は激動の幕末に情報拠点となった要衝で、あの薩長同盟の密談を伝える文書も見つかっている。「隠れ家」は脇の路地のさらに奥にあり、もの暗さが雰囲気十分だ。将来、一般公開したいという話もあり、楽しみである。

さらに中山道を進み、恵那山から流れる四ツ目川を渡るといよいよ本町エリアだ。旧庄屋をはじめ古い町家が増え、徐々に気分も盛り上がる。そして榊形を折れると商家の町家や卯建つのある家々が並ぶ中心部に到着する。数年前に景観整備がされたこともあり、魅力的な光景である。駅からここまで約二十分、多少距離はあるが、途中々々に見所があり、飽きることはない。



旧中津川村庄屋肥田家

ほどよく疲れたところで町家をリノベーションしたカフェで一服したい。榊形の中にも空き家がある。今回入ったカフェは築百五十年以上の町



桂小五郎隠れ家跡(入口)

家を、地元のまちづくり団体と東京の大学生等が協力して改修し、この九月末にオープンさせたばかり。カフェのほか、学生の活動スペースもあり、来春にはゲストハウスも併設される。これまではなかったスタイルの店舗ができ、まち歩きの楽しみが増えた。



町家を改装したカフェ

空き家問題については、行政も出資して五月に設立したまちづくり会社「まちなかラボ」でも、空き家マッチングや空きレトロ建築の公開など歴史的資産の活用を考えている。また昨年には杉原千畝が幼少期に住んでいた場所も発見され、話題に尽きない中津川、数年後にはさらに新しい魅力が加わっていることだろう。そんな期待感をもって、今回の来訪を終えた。

## 歩くことは気づくこと

今回歩いてみて、中津川のまちがちように変わろうとしている節目にいて感じることが多かった。そう感じたのも歩いてじっくりまちを見、話を聞き、知ることをとらえるには歩くのが一番だ。中津川の今後に乞うご期待である。